

令和7年第14回議員定数等調査特別委員会 要点記録

開閉会日時	令和7年4月25日（金曜日）			開会	9:54	会議場所	別海町議会 委員会室 1		
				閉会	11:56				
委員の出欠	1 番	市川 聖母	出席	2 番	吉田 和行	出席	3 番	高橋 眞結美	出席
	8 番	田村 秀男	出席	9 番	小椋 哲也	出席	11 番	今西 和雄	出席
	12 番	松原 政勝	出席	13 番	中村 忠士	出席			
委員外の出席							合計	0名	
事務局職員	局長	入倉 伸顕		主幹	木幡 友哉		合計	2名	
傍聴者数	一般	0名		報道関係者	0名		合計	0名	

会議に付した事件及び会議結果など

発言者	会議経過
委員長 12番 松原	9:54 開会
	出席委員8名、欠席委員0名、委員外0名、会期1日 開会挨拶
委員長 12番 松原	議事1 議員定数に関する事項について
事務局 主幹 木幡	<ul style="list-style-type: none"> ・当特別委員会では、「委員会主義の観点から、委員会数及び所属人数について議論を行い、そこから全体の定数を導き出す」としていること、そして、委員の必要人数は「7名程度」としていることから、7～6名と考えた場合、定数は16名から12名の間に絞られ、考えられるパターンは11パターンとなる。 それぞれに対してメリットとデメリットについて意見を出し合い、最終的な採決に向けての参考資料としていきたい。 参考として、過去の別海町における議員1人当たりが担ってきた人口と、今後の定数16名から12名までの各同人口予測、類似自治体における議員1人当たりが担う人口、根室管内における同人口、議員1人当たりが担う面積を算定した。 これらを参考とした場合、議員1人当たりが担う人口は、概ね800名から900名の間が妥当と考えられ、今後の人口推移を鑑みた場合、議員定数は15名、または14名が妥当と捉えられるが、あくまでも検討材料の一つとして考えてほしい。
委員 9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の別海町は予算規模が大きいので、1人当たりが取り扱う予算額も参考値として算定しておくといいのではないかと考えている。 また、7名程度をどう捉えるかだが、6名を可とした場合、欠員が生じるなど状況によっては5名体制に戻ってしまうおそれがあるので、6名以下となる体制は選択肢から省いていいのではないかと考えている。
委員 11番 今西	<ul style="list-style-type: none"> ・予算規模に対する算定は私も必要だと感じる。 また、定数については、地区という縛りが少なくなってきた、1人が関わる地域が広がってきていることを考えると、何人減らせるかという調査は必要ではあるが、必要最低限の減員とすべきであると考えている。
委員 3番 高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・新体制になって最初の委員会を行ったが、扱う予算額が大きく、事業数も多いことから、今の体制では6人以下では厳しいと感じた。 なお、資料で示されている議員1人当たりの人口は800人から900人が妥当という根拠は過去10年間の推計上ということではないかと。
事務局 主幹 木幡	<ul style="list-style-type: none"> ・概ねそういうこと。
委員 1番 市川	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、議長が委員会に加わるか否かの考え方を決めることが重要となるのではないかと。

令和7年第14回議員定数等調査特別委員会 要点記録

	<p>なお、私は議長はこれまでどおり、委員会に加わらないことが良いと思う。その上で1委員会7名体制がベストではないか。</p>
委員 2番 吉田	<ul style="list-style-type: none"> ・15名体制がベストだと思うが、議長を除いた人数が偶数の場合、票割れしてちょうど半々になることがあると思うが、その場合どうなるのか気になる。
委員 13番 中村	<ul style="list-style-type: none"> ・4月から新体制で動き始めたが、7名になったことで論議が活発になった。現体制にしたことは正しかったと思う。 <p>わかりやすい議会、結果を出す議会、開かれた議会、行動する議会を実現するためには、7名の確保を要すると考えた場合、15名体制、または現状維持が妥当かと思う。</p> <p>反面、予想どおり会議時間が長くなり個々の負担が増えたので、今後現実的には議員の負担というものは重たくなっていくのだと思う。</p> <p>また、なり手不足の問題にもかかわるが、志と意欲が必要であることはそのとおりとして、議員のなりやすさという面では定数が少なくなるほどなりにくくなると思うので、これまでのなり手不足に関する調査も踏まえて定数を考えていく必要があると思っている。</p>
委員 9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、政策提言といったことを考えると、議会にもマンパワーが求められることから、調査の手を確保する観点からも当然定数は減らさないほうがいい。 <p>定数を議論する場合、最低14名が必要だが、何かしらのアクションを起こすためには15名あるいは16名が必要であるといった議論をしていくのが望ましいのではないか。</p> <p>なり手がいないので定数を減らすという考えは、現在行っている議会改革の方向性にそぐわない。</p>
副委員長 8番 田村	<ul style="list-style-type: none"> ・人口のみで考えるのはいかがなものかという部分はあるが、過去の推計からいくと、今後10年先を見たときに、議員1人当たり人口を1,000人以下で考えた場合、やはり14、15名になるかと思う。 <p>ただし、1自治体最低でも10名は議員がいないと議会機能が保てないということは考えなければならない。そこが下限だと思う。</p> <p>また、今はふるさと納税の収入があるので予算額が多い状況にあり、今後もずっと続くということにはならないとは思いますが、当面は事業も予算額も多い状況が続くので、そこは加味する必要がある。</p> <p>なお、第3期議会活性化計画における当特別委員会の設置目的が、定数減を視野に検討することとなっていることを念頭に考えなければならない。</p> <p>最後に、一般的には委員会構成から必要人数を割り出す方法、人口から割り出す方法、類似団体と比較して割り出す方法の3パターンが上げられる。</p>
委員長 12番 松原	<ul style="list-style-type: none"> ・かつては地区に合わせて議員定数を議論していたが、必ず地区から1人出すとなると、議員個人の資質に関わることもしばしばあった。 <p>今は仕事量も増え、より町全体のために一生懸命頑張れる議員が必要とされている。</p> <p>新体制における委員会も、1回目だったので長い時間かかったが、今後はどんどんスムーズになっていくと思うので、そのことを考えると16名以下でも問題ない考える。</p>
委員 9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・市川委員から出ていた議長の所属をどうするかを先に議論していく必要があるのではないか。 <p>6名体制は除く、議長は常任委員会に所属しないのが望ましいということに</p>

令和7年第14回議員定数等調査特別委員会 要点記録

	<p>なれば、おのずと16名か15名かの議論に絞れる。</p> <p>その意識を持って視察に臨めば各々イメージできるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議長は常任委員会所属について意見を求める。 ・議長は議会全体を調整する役割を持っていることから、一委員として意見をすることは、他の委員に影響を与えることが懸念されるので、委員会には所属せず、全体を俯瞰する立場でいてもらうことが望ましいと考える。
委員長 12番 松原	
委員 9番 小椋	
委員 13番 中村	
事務局 主幹 木幡	
	<p>・私が議員になってから、議長が委員会に所属する状況を経験したことがないので、それがどういった影響を及ぼすかは分からないが、行政をチェックする議会の長としての立場は非常に重いものがあることから、小椋委員と同じ意見である。</p> <p>・補足だが、かつては法律上、全議員は委員会に所属しなければならないという規定があったが、今は条例に委任されているので、各々の議会で判断して問題ない。</p> <p>現状は、別海町議会委員会条例で全議員の委員会所属を規定しており、別に辞任の規定を設け、それを適用して辞任している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はっきりと所属しないことを規定してもいいのかもしれない。 ・そうすると、縛られるのではないか。今は辞任できる規定であり、場合によっては所属したままでもいられるが、初めから議長を除くとすると、選択肢がなくなる。 ・人によっては辞任しないということもあり得るが、それを選択肢として捉えるのか、リスクと捉えるのか。 <p>ここ20数年で議長が委員会に残った事例がないのであれば、ルールをすっきりしたほうがいいのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクという言葉が出てきたが、一期生の立場としては、確かに議長の発言の後には自由に発言できなくなる感じはする。 <p>今の議長がということではなく、議長という立場の人が委員にいてそういうリスクが考えられるので、委員外でいてもらったほうがいい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状、辞任については「できる規定」になっており、議長本人に判断してもらってルールになっている。 <p>現在、特別委員会には議長は原則加わらないことと規定しているが、予算決算特別委員会には例外として理由を付して委員となっている。</p> <p>特別委員会だけは例外で入る場合があるというのも少し変なのではないかと思う。</p> <p>議長は議事整理権者として、どの委員会にも所属しないことが望ましいと考える。</p> <p>経験も知識も豊富な議長が委員会で発言することで他の委員はそれ以上話せなくなるおそれがあるので慎重に決めなければいけないと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各委員の話を聞いていると絞ってしまったほうがいいと思えてきた。 <p>別海町議会としてはこういう取扱いだとはっきり決めてしまったほうがいいのかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議長は委員に調査等を依頼する立場なので調査には加わらないほうがいいと考える。 ・条例を改正するか否かは議会運営委員会の仕事だが、定数を決める上では、この特別委員会で議長を常任委員会委員とするか否かの方向性を示す必要があ
委員 9番 小椋	
委員 13番 中村	
委員 9番 小椋	
委員 2番 吉田	
副委員長 8番 田村	
委員 13番 中村	
委員長 12番 松原	
委員 9番 小椋	

令和7年第14回議員定数等調査特別委員会 要点記録

委員長	12番	松原
事務局	主幹	木幡
委員	9番	小椋
委員長	12番	松原
委員	9番	小椋
委員	3番	高橋
委員	11番	今西
委員長	12番	松原
副委員長	8番	田村
委員長	12番	松原
委員長	12番	松原
事務局	主幹	木幡
委員長	12番	松原
委員	9番	小椋
委員	2番	吉田
委員	13番	中村
委員	1番	市川

る。

その結果を議会運営委員会で検討してもらい流れでいいのではないかと。

・議長が委員会に加入しない議会は一定数あるが、議員定数が少ないために、議長が委員として参加している議会もある。

・かなり先の未来になるかもしれないが、議長が加入しないと人数が足りないような状況になった場合、条例上、議長が委員会に参加できる規定を削ってしまうと、元に戻すのが困難となることも考えられる。

・行政としてはそう考えると思うが、町民側からすると、必要ないから削る、再び必要になったから戻すという考え方は普通だと思う。

2年後に戻したのであればまずいと思うが、10年後、30年後に戻るのであれば、あまり関係ないような気がする。

・議員は4年サイクルで入れ替るので、4年ごとに同じ議論になって、結果が変わったとしても構わない。

・今の段階で議長が加わらないほうがいいという意見を持っているのは、私と田村副委員長、中村委員、吉田委員、市川委員。

委員長を除いて、意思表示をしていない委員は2人だが。

・今までどおり、議長が加わらないほうがいいということに同意。

・最低限の減員であるべきと考えていることから、必然的に資料のパターン1か2となる。よって、議長は委員会に加入しないほうがいいと判断する。

・全員の意見が一致したようである。

この考え方で進めていきたい。

・特別委員会も含め委員会の独自性を考えるとそのほうがいい。

11:01 休憩

11:11 再開

議事2 その他

(1)行政視察について

・前回会議までに視察先、日程、議題が決定したので、現在、道議長会及び白老町と詳細な調整を進めている段階。

行程表(案)はできたが、食事場所に関しては未定となっている。

・政務活動費について、現状、それぞれどう思っているか。

・使途を公開することで、議員個々にどんな活動をしているかが正式に伝えられることは個人的にメリットだと考える。

・個人視察の幅が広がっていい。

・活動の幅が広がると思う。公的に堂々と活動できることでやりやすくなる部分がある。

また、インターネットも役には立つが、書物を読んで勉強したいこともあるので、政党活動に類しない業界紙、例えば教育関係の週刊誌のようなものを購読しているが、そういった経費も賄えるのであれば大変役立つ。

ただし、しっかりとした条例や規則を作り、町民に分かりやすく説明できる手続きは絶対必要。

なお、定期購読にかかる費用は現在、議員活動調べに記載していないが、該当すると思うので、今後記載したい。

・議員になれば時間も取られるし、勉強のための費用もかかる。新聞などを購読しているが、その費用を負担してもらえるのであればもう一誌購読しようか

令和7年第14回議員定数等調査特別委員会 要点記録

委員 3番 高橋	<p>とも考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もちろん参考図書や雑誌をもっと読みたいと思う気持ちはある。
	<p>ただ、知人からはそういったものを買うために報酬をもらっているのではないのかと言われ、返答に困ることがある。</p> <p>町民はそう感じているのかと思う部分もある。</p>
委員 13番 中村	<ul style="list-style-type: none"> ・政務活動費と報酬は一緒にしてはいけないということは、この委員会でもこれまで勉強してきたところ。 <p>政務活動費が第2報酬であることは否定されなければならない。その区別を町民に分かってもらう必要がある。</p> <p>次の視察ではその部分をしっかり勉強してこななければならない。</p>
委員 11番 今西	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動範囲は地域の狭いテリトリーだけで、その範囲内の情報収集で十分だったが、近年その範囲が全町に広まってきているのも事実。 <p>それでもまだ、政務活動費を費やさなくても情報収集や勉強は十分できていると思っている。</p> <p>これからの人がもっと広い視野で活動したいという場合には、政務活動費が必要だとも思う。</p> <p>そういった両方の思いがある。</p>
委員 2番 吉田	<ul style="list-style-type: none"> ・政務活動費は既にもらっていると思われることがある。 <p>公開することで、はっきりと証明できるのはいいと思った。</p>
副委員長 8番 田村	<ul style="list-style-type: none"> ・使途ははっきりと決まっている。 <p>議会議員としての役務の対価が報酬。議員個人としての調査研究に対する費用が政務活動費。</p> <p>今実施している議員活動調べの結果でそういった経費がどれほど計上されているのか。</p> <p>16人中3、4人しか経費をかけた活動をしていないのでは、町民に納得してもらえない懸念がある。</p> <p>全体で7、8割の議員が活用するような状況にならないと難しいと思う。</p>
委員 9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・政務活動費があることによってどういった活動ができるかといった側面が強いと思う。 <p>使わない自由もあると思うので、使う人数が少なくてもいいのではないか。その分税金を使わないことになる。</p> <p>しっかり公開しなければならないし、事務手続きの手間もあるし、場合によっては使途を説明しなければならないことを考えたときに、それでも使うことにメリットがあると思った議員が一部でもいるのであれば制度としてはあったほうがいいのかという考え方もできるのではないかと。</p> <p>議員活動調べの政務活動費の項目については、どこまで計上していいかわからないし、実際手間ではあるので、一度も記載したことはない。</p>
副委員長 8番 田村	<ul style="list-style-type: none"> ・そういった理由で記載しない方がいるのは、それはそれでいいかと思うが、議員活動調べに項目があるので、その結果をまずは見ないといけないということ。 <p>その結果と併せて考えていけばいいかと思う。</p>
委員長 12番 松原	<ul style="list-style-type: none"> ・議員活動調べのまとめと、北海道町村議会議長会の視察を終えた段階で改めて議論したいと思う。
委員 13番 中村	<ul style="list-style-type: none"> ・確認だが、議員活動調べにおいては、政党活動に当たるか当たらないかのボ

令和7年第14回議員定数等調査特別委員会 要点記録

		<p>ーダーラインが曖昧なので、とにかく政務活動費的経費すべて記載することとしていいか。</p> <p>皆さんも是非そうしていただきたい。事前に実例が出て、良い悪いがはっきりするのではないか。</p> <p>例えば、共産党員が赤旗を購読していれば政党活動になるだろうが、それ以外の方が購読しても政党活動には当たらないといった判断ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は自民党員としての活動もしているが、正直、議員でなければこの活動はしていない。 ・そういう理由で、政党活動に関する費用の何割までは政務活動費としていいとしている議会もあったと記憶しているので、情報としてお伝えする。 ・最後に、行程表の中で未定となっている食事場所について意見があれば。 ・千歳市の夕食は昨年度行った店舗がよかったので、同じ場所かどうか。 ・異議なし。 ・せっかくなので、札幌市の夕食はシティープロモーション・ブランディング推進事業で関係している店舗に行けるといい。 ・総合政策部に確認して予約しておく。 <p>人数も多く、昼食を予約できる店舗も少ないため、白老町の昼食は事務局に一任願いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異議なし。 ・到着日の札幌市の昼食は各自でいいか。 ・異議なし。 ・ほかに何かあるか。 ・次回の議題は何か。 ・白老町の視察で、後半にフリーディスカッションが予定されているので、先方の情報を前もって確認しつつ、どういったことを聞くかなどを調整してはどうかと考えている。 ・その他、報酬の関係についても話しておけることがあれば調整しておいてはどうか。 ・承知した。 ・ほかに何かあるか。 ・なし。 ・次回開催日は5月23日10時としたい。 ・異議なし。
委員	9番 小椋	
委員長	12番 松原	
委員	9番 小椋	
委員	一同	
副委員長	8番 田村	
事務局	主幹 木幡	
委員	一同	
委員長	12番 松原	
委員	一同	
委員長	12番 松原	
委員	9番 小椋	
事務局	主幹 木幡	
委員	9番 小椋	
委員長	12番 松原	
委員	一同	
委員長	12番 松原	
委員	一同	
委員長	12番 松原	閉会挨拶
委員長	12番 松原	11:56 閉会